

# 史跡小牧山主郭地区 第11次発掘調査

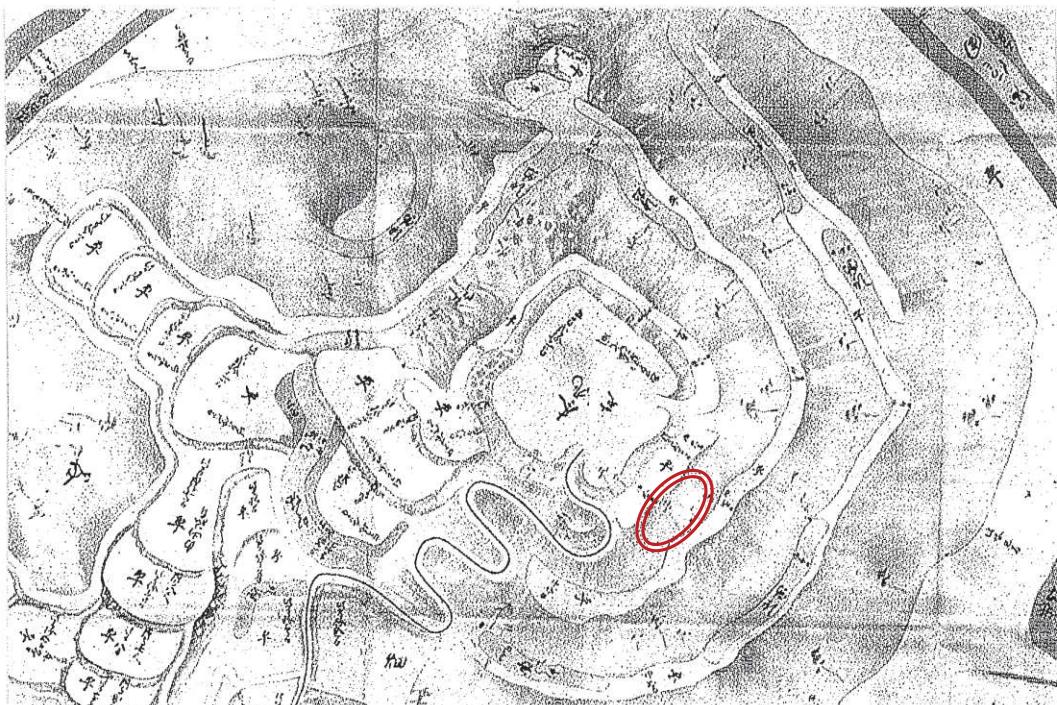
## 現地説明会資料

平成30年11月18日(日) 10:30~

小牧山城縄張図  
(破線の範囲が主郭地区)



春日井郡小牧村古城絵図(部分拡大)  
※十七世紀中頃  
蓬左文庫蔵



## 遺 跡 名

こまきやまじょう  
**小牧山城** (国指定史跡 小牧山)

## 所 在 地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

## 調査理由

史跡整備

## 調査面積

約 520m<sup>2</sup>

## 調査期間

平成30年6月～平成31年1月（予定）

## 調査主体

小牧市教育委員会



図1 調査位置 (X 区) と見学ルート ↗

## 1 調査の概要

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、4カ年の試掘調査と10カ年の発掘調査を経て、今年度が15年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年（1563）に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています。

今年度は主郭（本丸）南斜面で調査区（X区）を設定し、調査を行いました。

調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

## 2 調査成果（何が明らかになったのか）

**【1】主郭（本丸）南側の1～2段下の斜面で石垣と岩盤による壁面を確認。それにより区画される2面の曲輪（曲輪022・023）を確認しました。**

主郭の南斜面、麓から続く小牧山城の大手道の東側に位置する今回の調査区は、平成26年度の第7次発掘調査で確認された3段目の石垣の延長に位置する斜面とその下に曲輪（022、023）があったとされる場所です。調査により、斜面は高さ約5.8mで、上半が石垣、下半が小牧山本来の岩塊を人工的に切り建てて壁面とした岩壁で形成されていることが明らかとなりました。石垣は曲輪022では現在検出中のため詳細不明、曲輪023では高さ0.8m、延長31mですが、裏込石の残存範囲から当時の高さは約1.6mだったと推定されます。岩壁は石垣の下約3mの高さで人工的に切り建てられており、特に下端付近では成形加工の痕跡が顕著です。石垣の勾配は約67度、岩壁の勾配は約60度です。（写真1）



写真1 石垣と岩盤の発掘状況



写真2 曲輪023で確認した土坑SK01

また曲輪022と023の間、約2mの段差の斜面も岩盤を人工的に掘って整えていることも確認できました。曲輪023の東側では、2基の土坑SK01、02を確認しました。(写真2)土坑SK02は、長辺約0.8m、短辺約0.7m、深さは0.6m、いずれも曲輪面の岩盤を掘り下げる直方体の穴を造っています。土坑の埋土からは大量の礫(転落した石垣石材と思われます)とともに戦国期の遺物が出土していますが、これらの穴がどのように使われたのかは不明です。

## 【2】小牧山城内で初めて屋敷建物の一部を確認しました。

曲輪023では上記の石垣・岩壁面に接するように建てられた2棟の礎石建物の一部を確認しました。西側の建物Aは4間(6m)分の幅を持つとみられますが、奥行きについては調査区外に延びるため不明です。建物北側の壁沿いに玉石敷と排水用の側溝を伴うことが確認されました。(写真3)建物Bは建物Aから東に約1.5m離れた箇所で、建物Aと向きをそろえて建てられています。2間(3m)以上分幅を持つとみられますが、奥行きについては調査区外に延びるため不明です。建物Bには玉石敷は伴いません。建物付近の曲輪023面からは、天目茶碗や青磁の小碗などが出土しています。(写真4)

小牧山城では、平成27年度の第8次調査で、主郭の東、搦手口にあたる場所で門と推定される礎石を1石確認していましたが、今回見つかった建物跡は、屋敷・館として利用する建物の一部と推定できます。主郭及び城内で初めて確認事例であり、小牧山城の当時の姿や機能を知る上で大変大きな成果と言えるでしょう。

## 【3】見つかった2棟の建物により、小牧山城の山頂には屋敷群が存在したことが判明しました。

これらは「信長の館」の一部である可能性があります。

信長は付表2のように本拠地を清須⇒小牧⇒岐阜⇒安土と移しています。このうち、岐阜城と安土城では信長のための特別な生活空間が山頂に設けられ、限られた者にしか立ち入りが許されていない様子が城を訪れた宣教師の記録などから伝えられています。

小牧山城で、主郭を含む周辺がどのように利用されたかはこれまでにはっきりとはわからませんでしたが、今回確認された建物跡がそれらに相当する施設である可能性が出てきました。



写真3 (左から) 建物A礎石列と玉石敷、側溝



写真4-1 天目茶碗出土状況 (曲輪023)



写真4-2 青磁小碗出土状況 (曲輪023)

その根拠としては、

- ① これまでの調査から、小牧山城では石垣は中腹以上にしか分布せず、信長が山頂～中腹を「信長の城」として特に石を用いて築いており、今回の調査区もその範囲に含まれること。
- ② 主郭周辺や山麓の調査ではほとんど出土していない茶器や青磁など高級品が出土していること。
- ③ 建物周囲に精緻な玉石敷をめぐらせていること。

(城郭内建物に玉石敷が伴う例としては、豊臣秀吉の肥前名護屋城内の御殿など格式の高い建物や茶室など遊興性の高い建物に限られ、城主あるいはそれに近しい人々にのみ使用が可能な設備といえます)

などが指摘できます。

## 付表1：小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年 (1567)	織田信長、稻葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の合戦 (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長15年 (1608)	名古屋城築城開始。小牧山城の石垣を持ち出しか?
		小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年 (1872)	県立小牧公園として一般公開される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始（第1～4次調査）
	20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始（第1～11次調査）

## 付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年 (1555)	22歳	清須城入城	清須城：石垣なし	×
永禄 3年 (1560)	27歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年 (1563)	30歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄10年 (1567)	34歳	稻葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城（千畳敷） ：巨石石積	改修
天正 4年 (1576)	43歳	安土城築城開始	安土城：総石垣	○
天正10年 (1582)	49歳	本能寺の変		

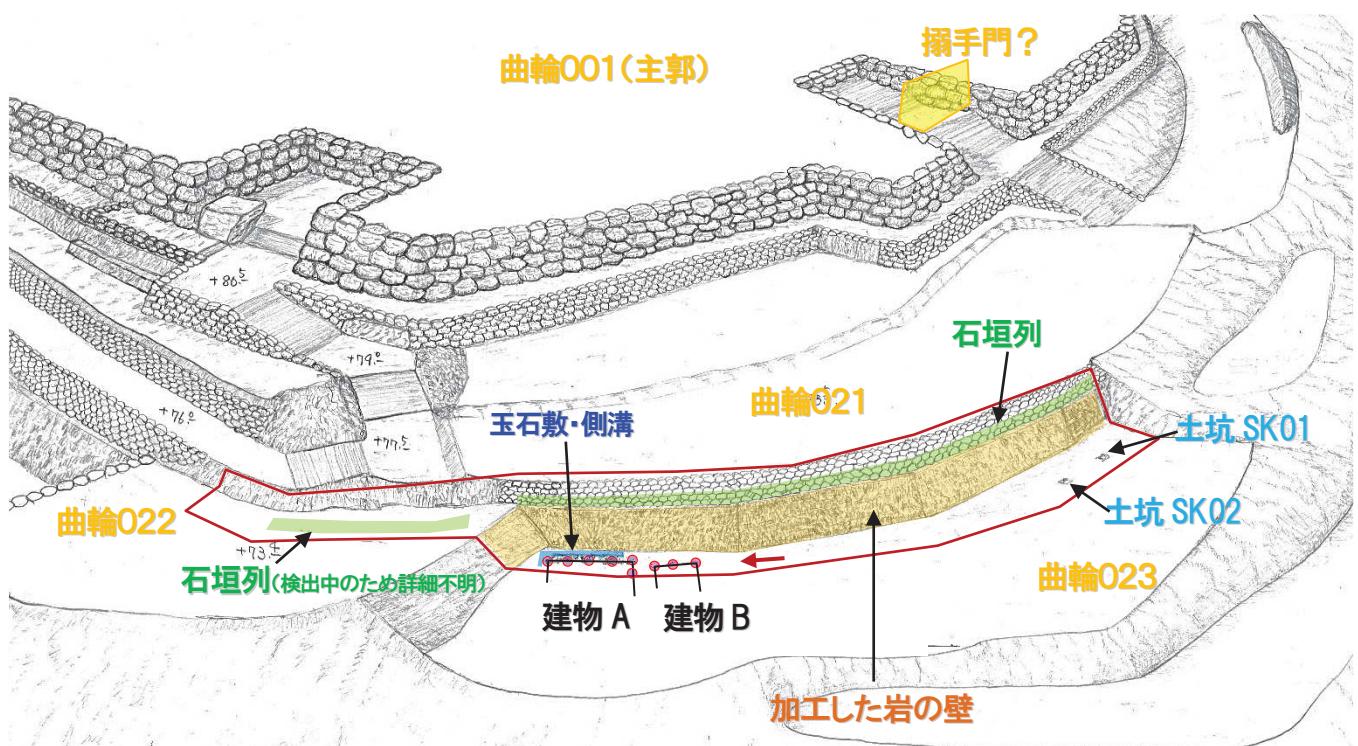
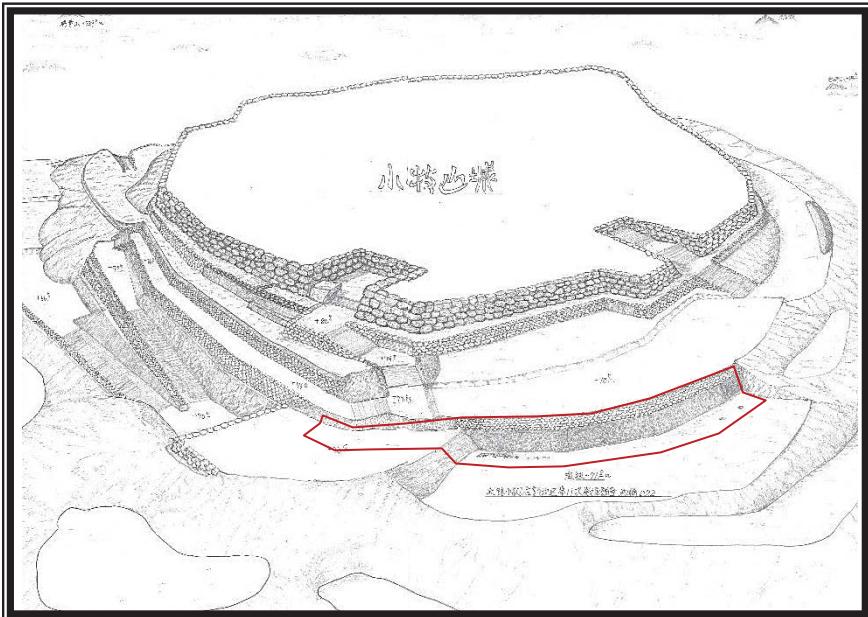


図2 小牧山城山頂周辺推定模式図と今年度調査で見つかった遺構

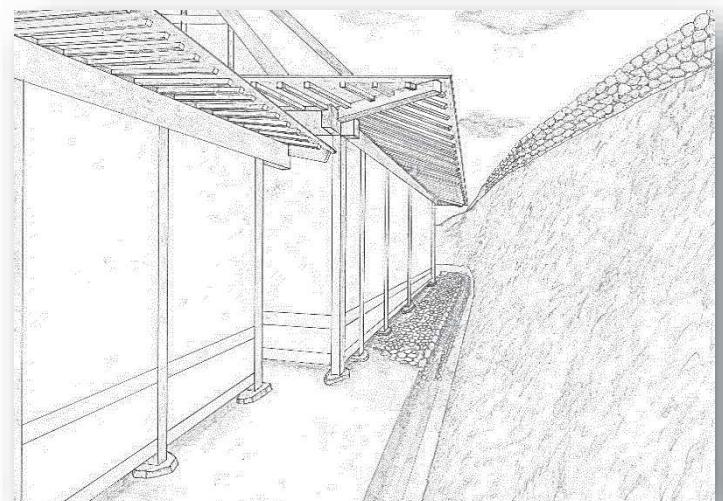


図3 建物A・Bおよび玉石敷列、側溝の立体想像図  
(図2の←方向から見たところ)